

多重連携システムによる超防災型持続可能な地域環境の実現と日本大学の役割

平成 25年 2月 22日(金)～23日(土) (2日間)

会場 日本大学生物資源科学部 大講堂 (神奈川県藤沢市、小田急線六会日大前駅下車5分)

日本大学は、総合大学の利点を活かし学部連携シンポジウムを実施してきました。また、持続可能な社会の構築のための、建築・都市・環境・エネルギーの戦略研究とデザイン・実践に関する国際シンポジウムを実施してきました。それを継承し、東日本震災後の課題に立ち向かうための国際シンポジウムを平成24年度に開催します。

大災害に対する支援研究、今後の多重な災害に対する防災研究、及び再生可能エネルギー開発と活用研究、持続可能な都市、地域、コミュニティ構築のための国内外での研究及び教育の深化と交流を図り、社会に還元することが日本大学に求められています。

東日本大震災、原発事故災害は広域的で長期的な被害を及ぼし、いまだ日本再生の明確な目途、方針、ロードマップが描けない厳しい状況です。そのような中で、より良い一歩を進めていくために、日本大学及び国内外の専門家の参加を得て開催いたします。奮ってご参加頂ければと思います。

実行委員会 委員長 糸長浩司(生物資源科学部)、副委員長 柿崎隆夫(工学部)

本シンポジウム・学術講演会等の概要

【1日目(2月22日)】

【ポスターセッション】10:30～12:00 午前の部

生物科学資源部、工学部、生産工学部、理工学部、短期大学部、NPO法人、農村計画学会、企業

13:00～18:00 午後の部

開会宣言・挨拶・・・河野英一 生物資源科学部長
共催団体 農村計画学会会長・挨拶

・・・山路永司(東京大学)
実行委員長挨拶と主旨説明

・・・糸長浩司(生物資源科学部)

【講演】13:30～17:50 午後の部

1. 津波災害と復興のランドスケープデザイン
・・・葉山嘉一(生物資源科学部)
 2. 津波被害集落の高所移転と集落復興再生
・・・藤沢直樹(生物資源科学部)
 3. 漁村の空間特性と復興デザイン
・・・宮崎隆昌(生産工学部)
 4. 東北のコミュニティ復興再生シナリオ
・・・広田純一(岩手大学)
 5. 漁村の復興シナリオ
・・・畔柳昭雄(理工学部)
 6. 海岸線の多重防災デザイン
・・・中西三和、小林昭男(理工学部)
 7. 震災復興の複合シナリオ
・・・佐藤隆雄(安全安心な社会創造研究所)
 8. 協働によるエネルギーの地産地消
・・・高橋巖(生物資源科学部)
- 18:00～19:00 懇親会(生物資源科学部本館食堂)

【2日目(2月23日)】

【講演】9:30～12:00 午前の部

1. 原発災害に抗した二拠点多重居住システム
・・・糸長浩司(生物資源学部)
2. 大学・NPOとの連携による旅館村の避難生活克復行動
・・・菅野哲(福島県旅館村村民)
3. スウェーデンの低線量ひばく実態と克復シナリオ
・・・マーティン・トンデル(スウェーデン、イエテボリ大学)
4. 福島原発災害の実態と克復の展望
・・・今中哲二(京都大学)

【講演】13:00～16:30 午後の部

5. ロハスの工学とサステナブルふくしま
・・・加藤康司(工学部)
6. ロハスの工学と水
・・・橋本純(工学部)
7. ロハスの工学とデザイン
・・・柿崎隆夫(工学部)
8. 再生可能エネルギー自給島サムソー島の実践
・・・ゾーレン・ハマーセン(デンマーク、サムソーアカデミー)
9. オーストリアのバイオマスエネルギーの地域戦略
・・・ゲルノット・ストーグラーネ(オーストリア、ウィーン農業大学)

【パネルディスカッション】16:30～18:00

多重自然システムによる超防災地域環境の創造と大学の役割

コーディネータ: 糸長浩司

パネリスト: 河野英一、加藤康司、柿崎隆夫、小林信一、畔柳昭雄、マルティン・トンデル、今中哲二、菅野哲、ゾーレン・ハマーセン、ゲルノット・ストーグラーネ

18:10 終了

★参加はどなたでも可能です。参加費は無料です。逐次通訳あり。

【参加申し込み方法】①件名「国際シンポジウム参加」22日、23日を明記 ②氏名(所属) ③連絡先(FAXorEメール)

★申込期限 平成25年2月15日(金)

★問合せ・申込み先 日本大学生物資源科学部研究事務課 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL: 0466-84-3871、FAX: 0466-84-3875、Eメール: kenjimu@brs.nihon-u.ac.jp

★共催団体: 農村計画学会

★後援: スウェーデン大使館、デンマーク大使館、オーストリア大使館、日本建築学会、日本都市計画学会、日本都市計画家協会、郡山市、郡山地域テクノポリス推進機構、エコロジー・アーキスケープ、WWF、FoE Japan、福島県、日本機械学会

★後援予定: 藤沢市、日本建築家協会、自然環境復元協会、循環型社会研究会

